

令和4年度 地域活性化支援事業にかかる受託者の支援状況等

Ⅰ 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の実績等

・事業開始時に、区まちづくり推進課及びまちセンで各地域の現状及び課題についての情報共有・意見交換を行い、年間支援計画を作成し、支援方針を策定した。

・此花区民の地域活動への関心やニーズを把握するため「地域コミュニティに関するアンケート」を行った。主に地活協事業等の参加者に対して、アンケート調査の依頼を行い 158 件の回答が得られた。アンケート回答者のうち町会に加入している人が 68%であることから、地域の行事参加者の多くが町会加入者であることがわかった。回答者のうち、地域活動に関心がある人が約 41%おられたことからつまり、地域活動に参加しており地域活動に関心はあるが、担い手になっていない人材が一定数いることがアンケートでわかった。

・区と地域の防災訓練等の打合せに適宜同席し、区役所と地域の間にたち、意見のフォローやファシリテーションを行った。これは地域だけでなく区職員への支援にも繋がっている。地区防災計画作成に向けた準備として各地域の災害特性をまとめた資料を作成した。さらに区危機管理担当と連携し、伝法地域において地区防災計画作成に向けたワークショップや打合せ会議出席し、地区防災計画作成支援を行った。地域の防災の方針が決まることで、地域課題や今後の訓練の方向性が明らかとなった。西島地域では、地区防災計画作成に向けた地域アンケート作成支援を行い、集計結果を区及び地域に提供し、情報共有を行った。

・此花区役所の地域担当職員制の効果を発揮するため、今年度新たに地域担当職員を担当する職員に向けた地域担当職員新任研修を実施した。コロナ禍により、地域に出向く機会が少なくなる可能性が高いことから、事前に此花区の地域性、個々の地域特性や実情について説明することでコミュニケーションを取れるよう促す研修とした。

Ⅱ 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の実績等

・研修型の交流企画として実施する「地域活動勉強会このまちトライアル」は、地域の人の「ちょっとやってみよう!」を後押しする実践型勉強会である。今年度は「オンラインツールを地域活動で活かす」を主軸に、各回にテーマを設け、地域活動で活かせる様々な取り組みを、集った参加者同士で「体験」を通じて試み、各自の地域活動に役立てるためのプロセスを学ぶ場として全 5 回実施した。実践型の第 1 回～第 4 回は現地(リアル)開催で行い、情報提供や外部ゲストの事例発表や質疑の後、各テーマに沿った実践ワークを行うプログラムとした。第 1, 2 回は LINE グループ、オンライン会議システム Zoom の使い方、第 3 回にオンラインイベントの企画、第 4 回目に企画したイベントのシミュレーションを実施した。第 1 回～4 回目で延べ約 60 名が参加した。また、第 3 回では実際にオンラインを使った配信を行っている「このはな放送局」の運営メンバーをゲストに迎え、活動紹介や意見交換を行うことで企画を考えるワークでのヒントに結び付けた。さらに、最終回である第 5 回目にはこれまでの体験を通じて「遠方の方とオンラインでつながり、直接話をするができる」ことを実践できるよう、石巻市の公益財団法人 3.11 メモリアルネットワークのオンライン語り部プログラムによる東日本大震災で被災された方とのオンライン講演を実施し、29 名が参加した。参加者からは、この企画を通じて「オンライン環境に慣れて

きた」「オンラインに関する知識がついた」などの回答があり、実施に一定の効果があつたことがうかがえる。

・区と地域の防災訓練等の打合せに適宜同席し、区役所と地域の間にたち、意見のフォローやファシリテーションを行った。地域だけでなく区職員への支援にも繋がっている。

3 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の実績等

・感染症の状況が不安定ではあるが、会議を実施する地域も増えてきていたが、書面審議を希望される地域もあった。まちセンでは、資料・議事録のひな形データの提供や書類作成のポイント説明など、書面議決がスムーズに実施できるように支援を行っている。まちセンの支援によって地活協規約や要綱に沿って、書面でも予算・決算の議決を進めることができている。

・継続的に会計を担当されている方の多くが、地活協の会計ルールに慣れてきていることから、会計説明会を「初心者向け、不慣れな方」を対象に実施した。説明会では、決算書書類作成のシミュレーションを実施することで、必要書類の作成方法をイメージしていただき、できるだけケアレスミスが減らせるよう工夫した。さらに、説明会に出席できなかった方や確認したい方のため、会計説明オンデマンド動画を作成しまちセン HP から視聴できるよう公開した。会計マニュアル「会計ノート」や会計様式をまちセンホームページからダウンロードできるよう案内及び対応も行っている。

4 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の実績等

・研修型の交流企画として実施する「地域活動勉強会このまちトライアル」は、地域の人の「ちょっとやってみよう！」を後押しする実践型勉強会である。今年度は「オンラインツールを地域活動で活かす」を主軸に、各回にテーマを設け、地域活動で活かせる様々な取り組みを、集った参加者同士で「体験」を通じて試み、各自の地域活動に役立てるためのプロセスを学ぶ場として全 5 回実施した。実践型の第 1 回～第 4 回は現地（リアル）開催で行い、情報提供や外部ゲストの事例発表や質疑の後、各テーマに沿った実践ワークを行うプログラムとした。第 1, 2 回は LINE グループ、オンライン会議システム Zoom の使い方、第 3 回にオンラインイベントの企画、第 4 回目に企画したイベントのシミュレーションを実施した。第 1 回～4 回目で延べ約 60 名が参加した。また、第 3 回では実際にオンラインを使った配信を行っている「このはな放送局」の運営メンバーをゲストに迎え、活動紹介や意見交換を行うことで企画を考えるワークでのヒントに結び付けた。さらに、最終回である第 5 回目にはこれまでの体験を通じて「遠方の方とオンラインでつながり、直接話をするができる」ことを実践できるよう、石巻市の公益財団法人 3.11 メモリアルネットワークのオンライン語り部プログラムによる東日本大震災で被災された方とのオンライン講演を実施し、29 名が参加した。参加者からは、この企画を通じて「オンライン環境に慣れてきた」「オンラインに関する知識がついた」などの回答があり、実施に一定の効果があつたことがうかがえる。

・此花区役所の地域担当職員制の効果を発揮するため、今年度新たに地域担当職員を担当する職員に向けた

地域担当職員新任研修を実施した。コロナ禍により、地域に出向く機会が少なくなる可能性が高いことから、事前に此花区の地域性、個々の地域特性や実情について説明することでコミュニケーションを取れるよう促す研修とした。

5 来年度に向けた新たな取り組みやチャレンジ事項等

・地域の拠点にインターネットを設置している地域には、インターネットを活用した地域活動の広がりに向けた情報提供などの支援を実施し、他の地域でも地域の拠点にインターネットの設置を検討するための情報提供を実施していきたい。

・コロナ禍から 3 か年度が経ち、防災や福祉、子ども・青少年事業を中心に事業が再開しはじめている。以前から地域の課題となっている新たな担い手確保のきっかけづくりができる事業を実施し、地域にマッチングしていきたい。